

関宮学園

令和5年度
-6月-
発行 5/24

県大会優勝 近畿大会へ

5月4～6日北播磨で行われた全日本少年軟式野球大会兵庫予選会に関宮学園・浜坂中学校合同チームが出場し、見事優勝しました。普段一緒に練習できない合同チームの優勝は、画期的なことです。

近畿大会は6月3日(土)大阪府和泉市で開催されます。



チェロコンクールプレイベント 5 / 12

2年ごとに開催されますチェロコンクールのプレイベントとして、本校でもミニコンサートがありました。チェロの素敵な音色に楽しいひとときを過ごすことができました。子どもたちがよく知っている「ジブリメドレー」の演奏では自然に手拍子が起き、1年生から9年生まで楽しめるコンサートでした。



授業参観 P T A 総会 学級懇談会 5 / 13

新型コロナウイルス感染症の5類への移行をうけ、今年度は制限を設けない参観日となりました。多くの方に来校いただき、子どもたちが一生懸命学ぶ姿を見ていただきました。



オープン戦結果

野球部 ベスト8 男子バスケットボール部 初戦惜敗
女子バスケットボール部 初戦惜敗

感染症を防ぐ偉大な発明

1928年、フレミングが発見したペニシリンは、今まで手の施しようのなかった患者がみるみる回復する奇跡のような薬でした。新型コロナウイルス感染症のワクチンや治療薬の開発によりコロナ後の時代となりました。

ところで、「人類の歴史を作った17の大発見」(コデー・キンデー著)第14章「初めて石けんを使ったのは誰？」では人類と感染症の戦いにおいてペニシリン以上の発明は「石けん」と述べられています。

石けんは紀元前3000年頃にできたといわれ、羊毛の洗浄などに使われていました。石けんによる手洗いが感染症に有効であることが広く認識されたのは、パスツール(1822年生)が細菌説を唱えて以降です。しかしながら、それよりも前に、ハンガリーの医師ゼンメルワイスが「医師の手洗い」の重要性を訴えていました。ところが、医療行為は「神業」と考えられていた当時、医師の手が感染症を広げているというゼンメルワイスの主張はことごとく否定され、「手洗いの重要性」が広く認められるまでに半世紀の時間がかかりました。

その時代の常識を覆す新たな発見が認められるまでには長い時間がかかるものだなと思いました。

新型コロナウイルス感染症が5類となっても、手洗い、換気的重要性は変わりません。今後も続けていきたいです。

